JAPAN CHURCH WORLD SERVICE, INC.

奉仕団ニュース

社会福祉法人　日本キリスト教奉仕団
URL: http://www.jcws.or.jp/houjin/houjintop
第 39 号　2024 年 11 月
Tel 03-3202-0486
Fax 03-3202-0487

「握　手」

理事長　渡辺（わたなべ）　教（きょう）

今年の夏は暑い日が続きましたが、パリ、オリンピック、パラリンピックでは若い選手が大活躍し大会が盛り上がりました。しかし能登半島では大型台風の影響により、1月の地震に続いて大規模な水害が発生しました。被害に遭われた能登の方々が早く立直ることが出来ますよう祈ります。

夏の暑さがおさまり、ようやく秋にはなったかと思うと、すでに冬の様相を呈しています。一方でロシアによるウクライナ侵攻や、イスラエルのガザ地区や周辺国への攻撃等、和平も進まないままクリスマスの時期を迎えようとしております。

奉仕団で長年愛されてきた座間のアガペセンターは、現在の地に授産施設を開設してから60週年を迎えました。今年はアガペ祭も60周年を祝って「感謝、感激、還暦祭」と題して10月に開催され、晴天の一日多くの方たちが来場されて飲食、催し物、買い物等を楽しまれました。また入所施設の壱番館では利用者のみなさんと職員をつなぐコールシステムが古くなり設備更新に一千万円かかりましたが、日本郵便様からお年玉年賀はがきの寄付金500万円をいただき大変感謝しております。

アガペ東京センターの板橋福祉工場では実習活動も今年は増加し、7月から11月にかけて7名の方が体験され、また、福祉、保育、看護を学ばれている実習も5か所から多くの学生さんが来館されて、福祉の現場を体験していただくことができました。また、夏の「いたばし花火大会」では、駐車場を障がいを持つ方に開放し80名を超える方が花火を楽しまれました。新宿福祉作業所は年明けに予定される新宿区による次期の指定管理者選定の正式決定を待っています。引き続き運営を担うべく、これまでの働きをベースに、利用される方がより活躍できるような新たな取組を加えた計画を提案しています。

また、本部アジア研修交流事業では瀬谷常務理事と元田アガペ施設長がモンゴルを訪問し、労働・福祉事情等を知り交流を深めることが出来ました。

今年は奉仕団にとって5カ年中期計画の最後の年ですが、この4年間はコロナ禍、人手不足、熱費等物価の上昇等により計画とはかけ離れた展開となってしまいました。今年度はしめくくりの年として、来年度からの新しいフェーズに備えていきたいと思っております。

日本キリスト教奉仕団では十字架の前で握手をしているシルエットが描かれたロゴマークが色々な場所に使われています。会った時の握手は初対面、仲の良し悪しにかかわらず「これから一緒に何かをやりましょう、考えましょう」という意味で同じ方向に向かう意志を表します。また、別れ際での握手は成就を喜び合ったり、相手を理解した時、同意を得た時や仲直り、これから一緒に協力して何かを行う時でしょう。心のこもった握手は相手に自分の気持ちを伝える最短の手段かもしれません。奉仕団のこのロゴマークができた経緯は定かではありませんが、十字架の前ですからそこには神様の前でみな平等であり、嘘や罪がないこと、また固く私たちがイエス様を中心に結ばれていること、をあらわしているのだと思います。

「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」

（マタイ5:44）

誰とでも十字架の前で握手が出来るような平和な世界、奉仕団になればと願っております。

日本基督教奉仕団では障がいの有無にかかわらず「共に生き、共に歩む」当たり前の暮らしが出来る地域共生社会の実現に向けて、キリスト教の愛の精神をもってこれからも着実に歩んでまいりますので奉仕団の活動に皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

25年を迎えたアガペ壱番館とこれから

アガペ壱番館 館長 元田 勲

アガペ壱番館は今年、開設から25年を迎えました。法人理念「共に歩み、生きる」の通り、入居者の皆さまをはじめ、たくさんの方と今日まで歩んできました。今は地域移行・施設移行をすすめる流れがあり、「入所施設のあり方」が問われています。アガペ壱番館としても、今後のあり方の検討が必須となりますが、生活の場であるアガペ壱番館と共に過ごした私としては、生活の場の「選択の1つ」、地域の中の「集合住宅」という考えの基、目の前の起きていることを大切にして、開ける未来を信じて進んでいきたいと思います。

これからのアガペ壱番館も、どうぞよろしくお願いいたします。

もくせい園まつり2024

サポートセンターⅠ 施設長 府川 孝臣

2024年10月26日（土）、5年ぶりに『もくせい園まつり』が開催されました。幸い、当日は天候にも恵まれ、過ごしやすい一日となりました。佐藤座間市長をはじめ、多くの来賓の方々にも来場して頂き、ご祝辞を賜りました。また、当日は他の会場でもイベントが催されており、来場者数が心配されましたが、取り越し苦労なほど、大勢の方に来場していただきました。

5年ぶりの開催ということもあり、祭り未経験の職員が大勢おり、試行錯誤しながらの準備となりました。当日は、5団体の出店（物販・食品）、1組のステージ発表が行われました。出店に関しては、5年前と比較すると、約半数以下でしたが、それでも、食品から物販、綿菓子作り体験、あてくじなど、子供たちが楽しめる内容になっていたと思います。

ステージにおいては、音楽ユニット「ヤマクマヤ」のお二人に出演いただき、太鼓と笛の演奏を披露して頂きました。太鼓の演奏については、和太鼓に触れ合える時間を設けていただき、こちらでも子供たちが喜んでおりました。体験会も開いていただきました。また。例年と違った盛り上がりを見せておりました。

コロナ禍の影響を受け、2019年を最後に、開催を控えておりましたが、5類に下がり、感染予防対策の徹底、意識の向上等により、開催への道筋が見え、もくせい園として、利用者の方々をはじめ、地域の皆様の期待に応えるべく、開催する決定をし、7月から職員一体となって準備を進めて参りました。これまでの5月開催から10月開催に切り替え、課題も多く浮かび上がりましたが、無事に開催する事ができ、通常の業務の合間を縫って多忙な中、準備に協力をして下さった職員の皆様、駐車場をお貸し頂いた栗原小学校様、出店してくださった各事業所及びパン処様、そして何より来場してくださった地域の皆様方に感謝をいたします。本当にありがとうございました。

「座間市立児童発達支援センター サニーキッズ 開所1年を振り返って」

園長 永田 智子

開所から一年、活動の場はテラスでの水遊びや公園外出など拡がりがみえます。行事では建物をいかし、兄弟・家族と参加できる企画を実施しました。新たに開始した事業では、子どもたちの過ごしの場として日中一時支援が定着し、居宅訪問型児童発達支援では医療的なケアが関わりの主となる子どもたちの生活に、彩りをもたせる取り組みに希望が感じられています。「身近な地域であたり前の育ち・生活を実現する」大きな目標に向かい、私たちの歩みは始まったばかりです。これからも地域のみなさまと手をつなぎ、取り組みを継続していきます。

アガペ東京センター

今年はエスター・ビドル・ローヅ（1896～1979）の没後45年にあたります。エスター・ローヅ氏は、法人設立のきっかけとなった、戦後のララ救援物資配給事業で日本と米国を繋ぐ重要な役割を果たした方です。

代々続くクエーカー信徒であり、1917年東京三田普連土学園で英語、家庭科などを教えるため来日、以来教育、福祉分野で日本に対し多大な貢献を果たした功績により1960年日本政府から勲三等瑞宝章を授与されました。

この方の足跡の中で比較的知られていないのは、戦時中、米国の収容所に強制収容された日系人に対する様々な支援活動と反戦活動だと思います。1940年休暇のため一時帰国されましたが、日米関係の急速な悪化により日本に渡ることが出来なくなってしまいました。その間1946年大戦終了後再渡航できるまで、アメリカ・フレンド奉仕団の一員として主にカリフォルニア州パサデナ地方の収容キャンプで日系人の支援活動を続けていました。

収容所は兵舎仕様として建てられ、子供や高齢者が住むには非常に不適切なものだったようです。人里離れた辺鄙な場所に（バラバラに）10ヶ所建設され、ローズ氏はこれらの遠隔地に頻繁に足を運び、日系人を励まし続けました。一口で「足を運ぶ」と言ってもロサンゼルス～コロラド間、シエラネバダ山脈を越えつつ千キロを走破する・・といった類の非常に過酷なものでした。「プレゼント」を車に積んで収容所を訪問し続けたローヅ氏の姿は、戦後ララ物資の配給でGHQから借り受けたジープを駆って日本の養護施設を飛び回っていた姿にぴったりと重なります。また1945年3月10日「東京大空襲」が報じられるや否や、ローヅ氏はただちにフィラデルフィアに戻り、クエーカー信徒集会で日本への常軌を逸した無差別爆撃に対する抗議決議を決定に持ち込み、国務省への陳情を開始しました。（陳情には新渡戸稲造の義理の甥にあたる方も同行）ようやく取り付けた陳情の席で、担当官は国防上やむなしと型通りの見解を述べたにとどまりましたが、眼鏡を外し「貴方の様な少数派がいる限り、アメリカの将来は安泰です」と、涙を流し乍ら述べたと伝えられています。

ローヅ氏の偉大な足跡は紛れもなく隣人愛に端を発しており、更に淵源を遡るまでもなくそれはやはりアガペ（神の愛）に基づくものだと思います。

参考文献：谷田貝常夫
「日本に献身したエスター・ローヅ讃歌」
（文字文化協会；刊）

東京都板橋福祉工場

板橋福祉工場の利用者のほとんどの方が知的障がいをお持ちですが、今年に入り2名の精神障がい、2名の身体障がい（視覚障がい、高次脳機能障がい）の方を受け入れています。支援員の幅広い支援力もあり、皆さん、元気に通所されています。11月からは聴覚障がいの方も入所予定です。

3月に「ニコニコイン」というコインケース（GOOD DESIGN AWARD 2023年度受賞）（河出書房新社より「ニコニコインわくわくおかねワークブック」24年11月27日発売予定）を開発した「株式会社夢育て」を招いて数字と金銭感覚を養う講座を開催。同時にモニカ営業と植物工場をアピールするためのクイズラリーを開催しました。

9月には昨年に引き続きNPO法人nerucoのお祭りを開催。7つの団体が協力しあって、地域の親子連れを招きました。今回は板橋区社協から綿菓子機と、かき氷機を借用、ボッチャを使ったビンゴゲームを開催。列をなす盛況ぶりでした。

毎年8月にいたばし花火大会が開催され、福祉工場では関係者を招いて屋上で鑑賞をするのが恒例となっています。今年は初めての試みとして駐車場を開放し、地域の障がいをお持ちの方を招いての鑑賞会も開催しました。事前に近隣数カ所の福祉施設に協力を頂きリサーチを行い、約80数名の当事者やそのご家族が来場して下さいました。

工場の清掃はシルバー人材センターにお願いをしているのですが、雇用されていた方が体調を崩されてしまい、代わりがなかなか決まらず約2ヵ月弱の間、職員が業務後にトイレを清掃して帰る時期がありました。大変ではありましたが、自分たちの手で綺麗にするという貴重な体験が出来た気がします。

将来の板橋福祉工場をイメージし、利用者の就労支援、地域とつながる施設、持続可能な取り組みを今、構築しております。

国立国会図書館複写受託センター

国会図書館複写受託センターでは国会図書館内において館の所蔵資料の複写業務サービスを行っております。開館日には数多くの利用者が来館し、膨大な館所蔵の資料の中から必要な資料を取り寄せ閲覧されております。

複写業務サービスには来館時および来館しなくとも国内外から資料複写が可能なサービスがあり、沢山の利用者の方々に活用いただいております。

スタッフとして現在障がい者職員3名を含む正職員11名、非常勤職員52名が在籍しています。
今後も利用者に安全と安心のもとサービスを提供できるよう運営に取り組んでまいりたいと存じます。

新宿区立新宿福祉作業所

新宿福祉作業所は就労継続支援事業B型と生活介護の多機能型事業所として、2007年4月から指定管理者制度による運営を行っております。

コロナも第5類に移行し、昨年度より少しずつ様々な活動が開けてきている中、施設内でのイベントや、外販等を中心とした作業がどんどん活気を帯びてきております。中でも、企業さまでの販売に出向かせて頂く企業外販は新規販売先も増えてきております。また、自主製品に於いては、利用者さんにお書き頂いた絵柄をプリントした製品を新たに販売し、ご好評頂いており、全体的に売上も好調となっております。イベントに関して、コロナ禍からの復活も段階を踏んでいる形ではありますが、その中でも特に大きなトピックスとして、5年ぶりに利用者の皆さまが待ち望んでいた“センター祭”が再開されました。やはりお祭りと言うものは皆さまの元気の源であると言った様に、準備から当日まで、利用者の皆さまはとても活き活きと販売や呼び込みに、時にカラオケの楽しみやご家族と楽しく様々な店舗を見て回られると言った思い思いの楽しみ方をされ、思い出深いイベントになったのではないかと思われます。

新宿福作では、特に秋口から販売会等のイベントも多く、地域の皆さまから愛され、積極的にお声掛け頂けております。また、こちらも利用者の皆さまが楽しみにされている宿泊旅行や、新宿区をあげての販売会である“共同バザール”、年が明けると成人の方や還暦の方をお祝いする“新年の集い”等、まだまだイベント盛りだくさんありますので、フルスロットルで年末年始を駆け抜けていきます。

そして、この場をお借りし、ご報告をさせて頂きます。我々新宿福作の伝統でありました“等身大アート展”を毎年横浜SOGOさんにて開催させて頂いておりましたが、検討を重ねた結果、横浜の地での開催は今年度で終結とさせて頂く運びとなりました。ただ、先人たちが守り繋げてきた良き伝統はしっかりとこの新宿の地で活かしていける様、次年度に向けて模索していきたく思います。

板橋区障がい者就労支援センター

板橋区障がい者就労支援センター　ハート・ワークは板橋区にお住まいの障がいをお持ちの方が、職業に就き、社会参加が出来るよう就労支援を行う事業所です。主な支援内容としては、相談、実習、就労準備、面接同行、通勤、職場適応、定着などが主な支援となっています。2024年3月末での登録者数は1,110名で、うち就労している方は668名でした。

2024年4月より障がい者雇用促進法が改正され、民間企業の雇用率が2.3%から2.5%に変わりました。2026年には2.7%へとなります。これと同じタイミングで短時間就労（10h～20h）が法定雇用率算定対象となり、働き方の多様性が拡大されました。ハート・ワークでも短時間就労の可能性を広げていく予定です。

一方、短時間就労の希望者には精神障がいや発達障がいの方が多く、今年度より精神科の先生に定期的に訪問いただき、色々な相談をさせていただいています。

また、就労されている方の権利擁護の観点からいくつかの問題ケースも発生し、法律的な観点から関係事業所に来ておられる弁護士の方への相談もさせていただきました。このようにシンプルな就労支援という職務のほかに生活面での支援が増加している状況です。このように専門性の必要なケースが多くなり専門の外部の方の協力が必須となってきています。

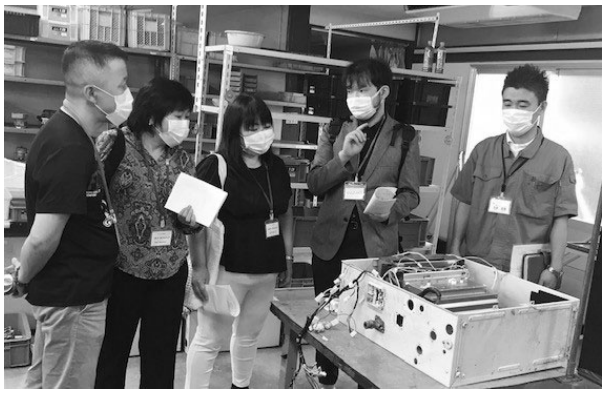
また定期的に提供しているイベントでは、コロナ禍が収まりつつこともあり、大人数でのアクティビティーを再開しております。ボウリング大会や交流会には多くの方に参加いただいております。

2024年アジア研修交流事業

モンゴル5か年計画の4年目としての アジア研修交流の実施

「アジア研修交流事業」では、1980年以来からアジアの諸地域より障がい者福祉事業者を日本に招き、当奉仕団の福祉施設や近くの障がい者福祉施設を視察し、障がい者支援における研鑽を深めていただくという交流を行ってきました。

これまでに、アジア15の国や地域から86名の研修生を受け入れてきました。「モンゴル5か年計画」の4年目として今年度は6月に、ウランバートル市の「エネレル障がい者職業訓練校」の職員3名（ヨンドンさん、ゴトブさん、ヤダムスレンさん）を研修生としてお迎えして実施いたしました。研修生たちは、異口同音に「障がい者の意志を大切にしたサービスの在り方や、職員の方々が誠実に向き合って対応している姿に感動しました。モンゴルでもそのようなサービスが提供できるように、一歩ずつ改善しながら努めていきたいです。」と感想を語っていました。



モンゴルからの研修生たち(左から3名)

日本での3週間の研修を終えてモンゴルに戻った研修生たちは、日本で学んだことを生かし、障がい者の就労支援や生活介護サービスなどの総合的な障がい者福祉サービスの改善を目指しながら障がい者福祉の働きを続けておられます。

閉講式後の記念写真（前列左から通訳者と研修生3名）

そして、今年は、日本からモンゴルに当奉仕団の職員2名を遣わし、交流の時を持つことができました。10月21日から26日まで、ウランバートル市にある「エネレル障がい者職業訓練校」等の施設を訪問し、現地の職員たちと交流をすることができました。このような相互の交流の機会を通して障がい者福祉サービスに関わる両国の協力ができていることに感謝いたします。

尚、11月11日～17日には、モンゴルの障がい者福祉の政府関係者ら6名が来日し、4日間、アガペセンターや障がい者施設を訪問して見学研修を行いました。

この事業は、すべて皆さまからの寄附金や献金によって運営されています。これまでに温かいご寄附や献金をお送りくださった方々に心から御礼を申し上げます。今後ともこの事業の働きを覚えてくださり、ご支援のほどよろしくお願い申しあげます。

1. 法人の概要

名　　称　社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団
所 在 地　東京都新宿区西早稲田2-3-18
代 表 者　理事長 渡辺 教
常務理事　瀬谷 智明
理　　事　井殿 準　佐々木 章吾　鈴木 寛　田口 努　田中 誠一　毛利 龍夫
監　　事　秋山 信義　後藤 省二
評 議 員　鹿村 洋人　金井 之広　小出 千鶴子　野口 美加子　古市 慎
　　牧 由希子　宮本 和武　百瀬 一成　山尾 研一　山田 秀樹

(2024年11月1日現在)

2. 事業の概要

①第一種社会福祉事業
・アガペ壱番館:障害者支援施設(施設入所支援・生活介護・短期入所)

②第二種社会福祉事業
・アガペ作業所:障害福祉サービス事業(就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援)
・アガペサポートセンター:相談支援事業(一般・特別)「受託制度」
　障害福祉サービス事業(生活介護・短期入所)
・座間市障がい児・者基幹相談支援センター:支援事業所
　(相談支援事業所等の後方支援、地域ネットワーク業務)「受託制度」
・座間市立もくせい園:障害福祉サービス事業(生活介護) 「指定管理者制度」
・座間市立児童発達支援センター:児童福祉サービス事業
　(児童発達支援・居宅訪問型児童発達支援・保育所等訪問支援・放課後等デイサービス・障害児相談支援・日中一時支援) 「指定管理者制度」
・スマイル:障害福祉サービス事業(共同生活介護)
・東京都板橋福祉工場:障害福祉サービス事業
　(就労移行支援・就労継続支援A型及びB型事業)
・新宿区立新宿福祉作業所:障害福祉サービス事業
　(就労継続支援B 型・生活介護)「指定管理者制度」

③公益事業
・国立国会図書館複写受託センター
・アジア研修交流事業
・アガペ診療所
・板橋区障がい者就労支援センター運営事業

(2024年11月1日現在)

【お詫び】奉仕団ニュースは郵送またはメール送付にて皆様にお届けをいたしておりますが、2024年7月発行の38号のメール送付にあたり、メールソフトの送信の誤作動により、一部の方に同じメールが何通も届いてしまうという事象が起こりました。ご迷惑をお掛けしましたことお詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。
なお、現在は修正を行い、問題解消しておりますことも合わせてご報告いたします。
なお、メール送付をご希望されない方は、ご面倒ですが本部事務局まで、ご一報いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。